

丹波市人権・同和教育協議会

第49号

人権ネットワーク たんば

発行 丹波市人権・同和教育協議会
事務局 〒669-3309
丹波市柏原町 柏原 4 4 3
TEL・FAX 0795-72-2770
e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

2021 年度 丹波市人権・同和教育協議会 総会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、役員及び本年度活動方針は書面表決により決定
会長に大西 誠さん、副会長に畑中 啓太さん、伏田 雅子さん

大西会長のあいさつ

紙面による総会のあいさつ文作成中の6月1日、丹波市では65歳以上高齢者のワクチン接種予約が始まりました。本紙が発行されるころにはワクチン接種も進み、新規感染者数がなおいっそう減少されることでしょう。

コロナ禍では、コロナ感染への不安からおこった「コロナ差別」が感染者やその家族に向けられました。デマ情報も交じって、氏名や住居が特定され、ネット上などで拡散されます。感染を非難し、自己責任を追及する書き込みは、その家に対する投石や誹謗の落書きに広がる事象もありました。加害意識のない、ゆがんだ正義感による非難・排除は、医療従事者をはじめエッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちをもその標的にしました。

エッセンシャルワーカーとは、外出自粛が要請されているコロナ禍で、感染のリスク（危険性）が高いながらも、社会生活を支えるために働いてくださる人たちの総称です。

昨年の4月、第1回目の緊急事態宣言が発令されました。新型コロナウイルスの感染が拡大する

なか、最前線で奮闘する医療従事者らを応援し、感謝の意を示す動きが広がりました。決まった時間に拍手をしたり、建物をライトアップしたりする取組です。

「医療崩壊を防ぐため一人ひとりができることを考えるきっかけに」「感染症をめぐる偏見や差別に対し、一人ひとりが何をできるかを考えるきっかけに」と期待されました。

「人手（マンパワー＝労働力、人的資源）が足りない、ベッド（病床）が足りない」とは、医療崩壊の現状をあらわした言葉です。

第3回目の緊急事態宣言延長前の5月9日、兵庫県における全病床使用率は74.8%、重症病床使用率79.0%（4月20日82.5%、76.7%）、入院先など調整中患者・自宅療養者3,608人と報じられました。

5月11日には、兵庫県で直近1週間の人口10万人あたりの新規感染者数が49.05人で、病床使用率と同様にステージ4（感染爆発段階・爆発的な感染拡大が起き医療提供体制が機能不全に）でした。丹波地域でも、10万人あたり31.67人とス

テージ4の25人以上に達しました。

5月26日時点の丹波地域でも3.84人と少なくなっていますが、ワクチン接種が始まった今、全国では接種を受けない人（重度の過敏症などで摂取できない人もいる）に対する「ワクチン差別」が起こっています。「摂取を受けない人に想像以上の圧力がかかって深刻」といわれる現状です。バッシング（個人・団体の行為に対して、根拠のないまたは過剰なまでの手厳しい非難をすること）では、問題解決は図れません。「持続可能な開発目標(SDGs)」に反する行為でもあります。

SDGsは「誰一人も取り残さない」ことを誓い、子どもたちの未来を守って、将来的にも豊かな暮らしができるように17の目標を立てています。「住み続けられるまちづくりを」はその目標の一つです。

コロナ感染にかかわる一切の差別や、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくそうとする行為を一人ひとりが考えてゆかなければ、差別の再生と歴史は繰り返されるばかりです。

丹波市人物伝

第2回 大野唯四郎 児童福祉の先覚者

今回の丹波市人物伝は、児童福祉の先覚者として知られる大野唯四郎を紹介します。丹波市市島町は愛育の里として有名で、その原点となった人です。

大野唯四郎は、1839年、旧丹波市葛野村上新庄（かしのんじやう）・土倉家に生まれました。幼年期から儒学を学び、儒教精神（万物に対する*愛念）を身につけました。

1863年、水上郡竹田村石原の豪農・大野三郎兵衛の養子となりました。儒教の教えを生活の中に生かした唯四郎は、若い時から孤児や貧民の救済に力を注ぎました。当時は江戸時代末期の動乱期で、農民の生活は苦しく、各地で一揆が頻発していました。

1876年ごろには、家財道具を投げうち、本格的な救済活動をしています。西日本を行脚し、捨てられた子どもがいればその親を探して、養育の手はずを整え、貧困のはなはだしい者には米や金を与えてきました。

このような行動に対して、大野家の縁故者が大勢詰めかけ、彼に憤りをぶつけたのは言うまでもありません。彼は決然と言っています。

「私が23年間、生家・土倉家で習い覚えましたことは、人間はただ偶然に人間として生まれてきたのではないということです。人間として生きねばならぬ生き方がなければならぬということです。それはただ一つ、万物に対する愛念であるということです」

「大政奉還はなったけれど、いまだ国情は定まらず、庶民の生活は飢餓線上にあります。多くの人たちは病んでも医者にもかかれず、薬も飲めず、その日のかゆをする

にもあえいでいるではありませんか」

「この状況を前にして、われ一人、父祖伝来の財産の上に安座して、暖衣飽食をむさぼっていて何が楽しいものでしょうか。難儀するときは皆一緒に難儀してこそ、それなりに楽しみがあるはずで。どなたが何を言われようと、人間唯四郎のこの初一念は微動だにしません」と。

こうした活動に対して、1878年、兵庫県から、愛育堂設立の許可書が届き、同時に「愛育」の木額が贈られました。

1880年のころには、彼の精神を引き継ぎ、西日本各地に「愛育社」が設立されるようになりました。

1885年、彼は、越前永平寺において不慮の死をとげています。

現在「愛育」の木額は、丹波市立竹田小学校の玄関に展示されています。また、市島町下竹田石原には、愛育堂址の石碑が建立されています。

さらに、堺市中区八田南之町には、唯四郎の意思を継いだ「愛育社」があり、養護施設として存続しています。

このように、市島町を中心に活躍した唯四郎の業績を源として、市島が「愛育の里」として知られるようになりました。

私たちは、いつの時代にあっても、次代を担う子どもたちを健やかに育てていく責任があります。温かく優しい心を持った子どもたちを育成する義務があります。唯四郎の業績に学びながら、子どもの命を守り、全ての人が共に支え合う丹波市づくりをしていきましょう。

※愛念（非常に愛おしく思うこと）

■ 参考文献：人権ゆかりの地を訪ねて（前編）丹波市人権・同和教育協議会



あなたとまちとフェイス to フェイス
中兵庫信用金庫
NAKASHIN
理事長 足立 厚 郎

本店・丹波本部 丹波市氷上町成松226-1
Tel.(0795)82-8850(代)

三 田 本 部 三田市けやき台1-4-3
Tel.(079)569-7150(代)

ホームページ <http://www.nakashin.co.jp>

JA丹波ひかみは
地産地消に取り組み
地域の「食」と「農」を応援します！

JAとれたて野菜直売所

※場所：JA丹波ひかみ本店敷地内
—希望とつるおいのあるまちづくり—

JA丹波ひかみ
〒669-3461 丹波市氷上町市辺440 TEL(0795)82-0170 FAX(0795)82-3658
<https://ja-tanbahiikami.or.jp/>

真実一路 株式会社 吉住工務店
代表取締役社長 吉住 正 基

本社：丹波市春日町野村2465
TEL：0795-74-0712

こだま館 / 丹波展示場
西宮営業所 / 西宮展示場
三田展示場

丹波新聞は下記の店舗で
最新号を販売しております。

丹波市
●ファミリーマート柏原下小倉店
●氷上パーキングエリア
●ひかみ四季菜館（大岡）
●丹波医療センター内 売店

丹波篠山市
●ファミリーマート篠山丹南店
●岡本病院内 売店
●セブンイレブン篠山黒岡店

丹波新聞 TEL.0795-72-0530
FAX.0795-72-1956
丹波新聞 検索

紙面
研修会

はちまるごーまる

「8050問題 ひきこもり」を考える

5月14日（金）に予定していた「2021年度 丹波市同教総会及び研修会」は、新型コロナウイルス感染症 緊急事態宣言が発出されたため、総会については書面決議、研修会については中止いたしました。研修会では、市同教副会長 伏田雅子さんに、「本当の『人権を守る社会的なつながり』とは・・・！ ～ひきこもり・8050問題によせて～」と題してご講演をいただく予定でした。一部を紙面研修会として以下に掲載します。

8050(はちまるごーまる)問題とは・・・

『「高齢の親」と「壮年期の子ども」の同居から生じる社会的な課題』『80代の高齢の親が、50代の無職やひきこもり状態の子どもと同居し、経済的な困窮や社会的孤立に至る世帯が増えている』(愛知教育大学 河北稔)状況とされています。すでに2010年頃より課題として早急な取組を要求されていたし、現在も増えていることから9060問題とも7040問題ともいわれています。

問題のとらえ方・・・

過去には事件の報道等で社会に大きな波紋を投げかけましたが、決して8050問題やひきこもり状態が事件に直結するわけではありません。むしろ、社会的な背景をもったこの問題を、個人の資質や家庭の責任だけにすることは間違いです。昭和・平成時代の積み重なった未解決な社会的課題の「つけ」に私たちは向きあわざるを得なくなっていると捉えるべきです。高齢者の生活、不登校、ひきこもり、生活困窮、子育て、障がい、無職・不就労、地域からの孤立などは、行政・福祉・教育・労働等の多くの分野に課題をなげかける人権課題としても重要な社会的問題です。ひきこもりの高齢化、長期化は親亡き後の新しい問題を浮上させます。ひきこもりのまま誰の支援も受けられない壮年者の生活困窮、孤独死、「引き出し屋」と称する団体の強制的な監禁など悲しい出来事が報告されています。

背景に社会的な歴史が？・・・

NHK「こもりびと」等の番組や新聞紙上の特集などでも報道されているように、高度経済成長期に終身雇用制の波に乗って順調な就労生活を送った世代とバブル崩壊や就職氷河期の問題等を抱えながら希望をかなえられなかった世代の確執、競争社会の波の中で孤立化し、学校や社会生活においてコミュニケーション・対人関係が疎外されている問題なども指摘されています。また、日本文化特有の世間並みにという同調の発想、家族のことは家族で抱え込むという発想も、この問題を見えにくく、相談しにくい問題にしているようです。このコロナ禍では、多くの人が自粛を余儀なくされ、職をうしない、生活困窮に直面する状況があり、人権擁護と支援の拡大は決して他人事とはいえない課題です。

背景に存在する「中高年の社会的ひきこもり」の課題・・・

8050問題の根幹には、「中高年の社会的ひきこもり」の課題があります。「ひきこもり」の定義として、「2018年厚生労働白書」では「様々な要因の結果として、社会的参加を回避し、原則的には6か月以上にわたっておおむね家庭内にとどまりつづけている状態を指す現象概念である」と規定しています。「社会的なひきこもり」(精神科医学博士 齋藤環 1998)は、不登校が顕著化するのとはほぼ同時期に提起されています。初期の「ひきこもり」問題は思春期や若年者の問題としてとらえられ、学齢期の不登校の課題と結びつけて考えられていました。実際、不登校を経験しての「ひきこもり」状態は今も存在します。しかし、90年代後半からいったん就職したにもかかわらず、「ひきこもり」状態に陥る人も多くなり、中高年のひきこもりが課題視されるようになってきました。多くの支援や解決の糸口が模索され、政府もガイドラインを作成するなど一定の取組をすすめてきましたが、今やひきこもりは全世代の課題であり、支援が重要視されています。

「中高年の社会的ひきこもり」の現状は・・・

2019年内閣府は前年度に調査した40～64歳の中高年層の社会的ひきこもりの実態を発表しました。それによると、全国に61万3000人と推計され、それまで15～39歳の若年層だけを調査していた数と単純に合わせると115万人程度のひきこもり人数が明らかにされています。専門家によると、これはかなり控えめで実際にはもっと多い数と推測されています。

「ひきこもり」は、そういう「状態」のこと・・・

厚生労働白書の定義に「ほかの精神障害が第一の原因とは考えにくいもの」という意味の言葉が続くように、ひきこもりそのものは病名ではなく、状態です。しかし、学校や職場、家庭や社会の対応によっては、二次障害として心身の不調をきたすことがあります。いじめや不登校、パワハラや不就労、職場内の人間関係、親子関係、本人の性格特性や発達上の課題・障がいなど、ひきこもりのきっかけや原因はいろいろ考えられますが、重要なのは「社会参加」ができないという状態をまずしっかり受けとめることです。当事者は非常に苦しい状態であり、良い悪いの価値判断や正論・説教の問題では解決しません。そこに寄り添い、共に考える家族の存在は重要であり、さらに第三者の支援が絶対に必要です。本人や家族の責任を問うより社会的な問題として考え、支援を求め、相談をすることは当然の権利であり、それぞれの人権を守る上でとても大切です。今ある状態を認め、存在を尊重し、次にできることを一歩ずつ考え、共に歩むことが必要です。

周りの支援は・・・

「ふだん目に見えない存在であるため、ひきこもりはさまざまな誤解や偏見にさらされています。世間との接点がないがゆえに、世間にわかってもらえない。しかし世間の正しい理解が進まなければ、正しい支援もできません」(前述 齋藤環)。8050問題も社会的ひきこもりの問題も、まず周りがその存在や現状をしっかりと把握し、現実を正しく理解すること、社会との接触の機会を少しずつ増やしていくこと、初めは家族、後に本人が相談できる支援・相談の窓口を多く設け、訪問も含め相談しやすい環境を広げることが大切です。そして何よりも支援の手立てがともに家族に寄り添える伴走型であること、誰でもいつでもどこにでも起こり得る他人事でない問題で共に考えようという姿勢が大切です。就労が最終目標ではありません。重要なのは私たち一人ひとりが社会の中で家族や周りの人たちとの交流をどのように深めていくのかを共に考えることです。丹波市内でも多くの支援者や相談窓口が存在します。そこへの行政の支援拡充もぜひお願いしたいと思います。

(参考文献) 『8050問題の深層』河北稔
『中高年ひきこもり』齋藤環
『ひきこもり救出マニュアル<理論編><実践編>』齋藤環
『社会的ひきこもり』齋藤環

(市内相談窓口) 丹波市福祉まるごと相談 丹波市役所自立支援課福祉相談係
兵庫労働局委託丹波市一体的実施事業「ワークサポートたんば」
兵庫県委託事業「たんば生きづらさネット」
丹波市子ども・若者育成支援居場所運営業務「子ども若者サポートセンター」

研修会のご案内

- 合同部会A(社会教育分野)研修会
7月15日(木) 19:00～ 柏原住民センター
講師:小藪実英さん(あじさい寺住職)
 - 人権ゆかりの地探訪(市内フィールドワーク)
7月29日(木) 9:00～ たんば黎明館・柏原高校
講師:荒木謙さん(元柏原高校教諭)
 - 人権教育(学校教育分野)研修会
8月4日(水) 13:30～ 柏原住民センター
講師:塚本一男さん(元小学校長)
 - 合同部会B(社会教育分野)研修会
9月7日(火) 19:00～ 柏原住民センター(予定)
講師:奥平綾子さん(自閉症サポート企画(有)おめめどう代表)
 - 合同部会C(社会教育分野)研修会
9月16日(木) 19:00～ 柏原住民センター(予定)
講師:瓢(ひさご)芳夫さん(人と防災センター)
 - 丹の里人権のつどい
12月5日(日) 春日文化センター
- ※上記の研修会については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、急きょ中止や延期になる場合があります。

人権啓発DVD「カンパニユラの夢」

この作品のテーマは、「超高齢化社会とひきこもり(8050(はちまるごーまる)問題)」です。近年、主に80代の「高齢の親」が50代の「ひきこもり」が長期化した子」を支えている家庭が増加しています。「8050問題」とは、こうした家庭が地域社会との接点を失い、親子ともども生活が困窮するなどの課題を抱え、将来への展望が見いだせない超高齢化社会における新たな社会問題のことです。

背景には、家族や本人の病気、親の介護、リストラ、経済的困窮、人間関係など、複合的な課題を抱えながらも、親子共倒れの問題が発生するまでSOSの声をあげることができない、現在の超高齢化社会における「家族の孤立」が地域に潜在化していることがあります。

この作品は、二つの家庭の視点で進行します。主人公の岸本麻帆はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口誠一とその両親は、問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦悩しています。麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。

急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることに認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権啓発DVDとなっています。



**長年の知識と確かな技術と
自由な発想—
新しい業務スタイルを提案します。**

防犯カメラ
防犯設計から
施工まで
徹底サポート！
安心と安全の
ために

**オフィス全体の
セキュリティ対策**
○情報漏えい ○不正アクセス
○なりすまし ○迷惑メールブロック等
○データ改ざん等ブロック
UTM(総合脅威管理ソリューション)
Unified Threat Management

株式会社 ユニットシステム
株式会社 ユニットシステム
UnitSystem Corporation
https://www.unitssystem.jp
E-mail: info@unitssystem

日本の旅／世界の旅 予約受付中

あなたの旅を応援します！

団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお気軽にご相談下さい
■JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外パック旅行/国内パック旅行の手配
■宿泊のみの手配や食事・観光施設の手配も行います
■貸切バス・航空券・JR券・フェリー券など各種船車券の手配も行います
■格安海外航空券・海外のホテルの手配・バスポートの代理申請
など幅広いご要望にお応えいたします

○お申込み・お問い合わせ 丹波市柏原町柏原(JR柏原駅構内)
■車でのご来店は無料駐車場あり(1時間無料です)をご利用ください

関西旅行社
TEL (0795) 72-0325 FAX (0795) 72-2416
E-mail: kansai-ryoko@mxn.kansai.ne.jp

JTB 近畿日本ツーリスト 日本旅行 L&OK JTB knet 日本旅行

お詫びと
訂正

2021年2月20日(土)発行の人権ネットワークたんば第48号に掲載致しました「中学生の主張 人権作文最優秀作品」にて、掲載内容に一部誤りがありました。

◎訂正箇所: (誤)植山春奈さん (正)植山春菜さん

訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

編集
後記

4月25日には3回目の緊急事態宣言が発出され、5月28日には6月20日まで延長されることが決定しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、総会、研修会や研究大会等も中止となりました。新型コロナウイルスの感染が一日も早く無くなり、いつも通りの当たり前の日々が戻ることを願うばかりです。(市同教事務局)